

# 令和4年度 自己評価結果を踏まえた学校関係者評価報告書

柴田町立槻木中学校

1 評価期間 令和4年12月～令和5年2月

2 学校関係者評価委員

加藤正光(委員長)、菅野喜和子(副委員長)、加藤 盛、平間幸弘、松田ゆう子、渡邊みち子、平間誠貴

3 評価規準

- 妥当である。(A+B合算値が80%以上) (適切な取組で、次年度へ向けての取組も妥当である)
- 妥当でない。(A+B合算値が80%未満) (取組が不十分で、次年度へ向けての改善策も妥当でない。)
- 判断することができない。

※自己評価の数値の算出方法

**【A：大変良い B：良い C：課題がある D：かなり課題がある】**

**※AとBの合計数を、教職員数で割った値が80%以上である場合を妥当とする。**

4 評価項目

## 1. 地域に支えられ「地域と創る学校」づくりの推進

		自己評価	学校関係者評価 委員からの評価
(1)	学校運営に対する地域住民・保護者等の参画と意見・要望の反映を図り、信頼される学校づくりに努めている。	100%	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当 要検討
(2)	学校の教育内容や実践を保護者や地域に積極的に公開し、開かれた学校づくりに努めている。	100%	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当 要検討
(3)	保護者の支援や地域の教育力を生かし、学校の教育活動の一層の充実を図っている。	95%	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当 要検討
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者評価委員による主な意見	
(1) 生徒、地域、学校の実態を踏まえた学校教育目標を設定して、教職員が協力して学校づくりに努めてきた。保護者の意見を聴く場を設けるように努めた。 (2) 学校だよりを定期的に発行し、HPも行事ごとに更新するようにし、生徒の活躍や学校の教育方針などについて紹介してきた。また、学年だより等のおたよりや一斉発信メールなどで情報発信に努めてきた。次年度も継続していきたい。 (3) 地区生徒会を母体とする「地域に貢献し隊」を結成し行政区長さんと連絡を取り、地区ごとにボランティア活動を計画した。コロナの影響で活動はできなかったが来年度は実施し、地域と連携を深めていく。		・学校だよりは、地域で回覧されている。通わせている生徒がいなくても学校の様子分かる貴重な情報となっている。 ・一斉配信メールはタイムリーな内容や危険回避などの安全に関する情報が即座に届くので大変ありがたい。次年度以降も続けてほしい。 ・学校からの情報発信だけでなく学校支援に関わってくださった地域の方からの情報発信が広がっていくと槻木中学校に関心を持つ方が増えてくると思う。 ・コロナの影響でやりにくかった地域との連携を進めてほしい。地域で中学生の役割が増えることで生徒の達成感や責任感を伸ばすことにつながるのではないかと。	

## 2. 「学力向上」と学習指導要領の趣旨の徹底

		自己評価	学校関係者評価 委員からの評価
(4)	「学力向上」を目指して、指導方法の工夫・改善を図るとともに、個性を生かした楽しく分かる授業の実践に努めている。	95%	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当 要検討

(5)	学習意欲の向上と生活習慣・学習習慣を改善し、主体的な学習を促して基礎学力の向上に努めている。	95%	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当 要検討
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者評価委員による主な意見	
(4) 学習指導部が中心となって、生徒が「見方・考え方」を働かせる授業改善を目指し各教科で授業改善を目指してきた。		・学習のめあてをしっかりと示すことで生徒が主体的になる。今後もめあてを明確に示すことを続けてほしい。	
(5) 標準学力調査の結果等から生徒に身に付けさせたい力を把握し、実態に合わせた授業改善につなげてきた。		・子どもたち自身のやる気と家庭の協力が大切です。学校以外の学習の時間の確保と環境作りが課題であると思う。 ・生徒が「わかった」を実感できる授業を目指して工夫されていることと思います。今後ともよろしくお願いします。	

### 3. 豊かな人間性を育む道徳教育の充実

	自己評価	学校関係者評価委員からの評価	
(6)	「特別の教科 道徳」の指導方法の工夫改善を行い、道徳的実践力を高めるとともに、教育活動全体を通じた道徳的実践意欲の向上に努めている。	100%	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当 要検討
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者評価委員による主な意見	
教科書の活用を軸に道徳教育推進教師の先導のもと各学年の道徳担当が中心となり授業に取り組んできた。		・仙台市のコミュニティスクールの実践発表会の中で、同じ域内の小中学校3校が学習のルールを統一している事例や、学校運営員の方に児童生徒が夢を語る場を設定したりする事例がある。参考にすることもひとつであると考えます。	

### 4. 生命の尊重と社会性の育成を図る生徒指導の充実

	自己評価	学校関係者評価委員からの評価	
(7)	「いのちと心を大切にすること」及び「良好な人間関係をつくること」が重要であるという共通認識のもと、いじめや不登校のない学校づくりに努めている。	95%	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当 要検討
(8)	児童生徒の発達段階にふさわしい生徒指導を推進し、家庭と連携して基本的な生活習慣の育成に努めている。	90%	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当 要検討
(9)	児童生徒に自己の特性を理解させるとともに、能力・適性や興味・関心等に基づいて将来の生き方を考えさせる志教育・キャリア教育の充実に努めている。	100%	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当 要検討
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者評価委員による主な意見	
(7) 普段の学習や各種活動を通して、自他を認める心や他を思いやる心を育む指導に力を入れてきた。特にいじめについては定期的にアンケートを実施し、素早く目を摘むことに力を入れてきた。		・職場体験学習は生徒にとって社会性を身に付ける貴重な機会です。日常の学校生活に行いさせる工夫や指導が大切だと思います。	
(8) 生徒の様子を注意深く観察し、家庭との連携を密に行ってきた。			
(9) 職場体験学習やキャリアセミナーなどの行事とともに、年間を通して将来を見つめる志教育、キャリア教育を進めてきた。			

## 5. 安全・安心な教育環境の整備・促進

		自己評価	学校関係者評価 委員からの評価
(10)	児童生徒の安全に対する意識を高めるための指導や「防犯教室」等を実施して児童生徒の安全確保に努めている。	100%	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当 要検討
(11)	地震災害等を想定した「避難訓練」「引き渡し訓練」「防災教室」を実施して児童生徒の防災意識を育てている。	100%	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当 要検討
(12)	「子ども見守隊」「安全パトロール隊」など地域の支援を受けて、通学路の安全確保や地域の巡回などを行い、事故や事件の被害を未然に防止している。	95%	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当 要検討
(13)	生涯体育・スポーツの視点に立ち、健康でたくましい児童生徒の育成に努めている。	90%	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当 要検討
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者評価委員による主な意見	
(10)	スマホ・携帯安全教室などの安全に対する意識を高める活動を行った。	白石での事故があった。槻木中学校でも施設や器具などの安全点検をしっかりとしてほしい。 また、学校だけでなく教育委員会の協力が必要不可欠となるので連携して取り組んでほしい。 ・スマホの利用の仕方が原因となるトラブルが増えている感がある。生徒自身が「自分ごと」と実感できるご指導をお願いします。	
(11)	避難訓練では安全に避難するための判断をする場面を設定して実施した。各学年で防災教育を実施した。体験的に学ぶプログラムを通して防災への意識を高められるよう配慮した。		
(12)	地域パトロール隊の見守り、教員による巡回を毎日行った。登下校のマナーやルールについて随時各学級で指導を行った。長期休業中には保護者も巡回を行った。		
(13)	保健体育の授業、部活動、生徒会活動などを通して、健康でたくましい生徒の育成に努めた。部長会を中心とした冬場の体力向上合同トレーニングに取り組む心と身体を健康を図ってきた。		

## 6. 特別支援教育の充実

		自己評価	学校関係者評価 委員からの評価
(14)	特別支援の指導体制が整っており、特別な支援を必要とする児童生徒のニーズに応じた指導を行っている。	85%	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当 要検討
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者評価委員による主な意見	
支援学級においては保護者との連携を密に行い生徒のニーズに応じた細やかな支援を心がけてきた。各学級の支援を必要な生徒の把握に努め、教員間で共有を図り指導に反映した。		・一人一人の生徒に合った対応、将来を見据えた活動など様々な対策をしていると感じる。 ・たくさんの先生方と関わる機会が増えることが大切だと思う。	

## 7. 国際理解教育の促進

		自己評価	学校関係者評価 委員からの評価
(15)	自国文化に対する理解を深めるとともに、英語や外国語活動に限らず他国文化に学ぶ国際理解と国際化に対応した教育の推進に努めている。	100%	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当 要検討
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者評価委員による主な意見	
総合の時間を通して1年生では住んでいる地域や宮城県について学び、2年生で東北について、3年生では修学旅行に絡めて東京について学習し日本の文化について学んできた。また社会科を中心とした各教科で外国の地理や歴史、文化などを学び、国際理解につなげてきている。		特に地域学習では子どもたちの記憶に残るような取組があると大人になったときのふるさと愛に重みが出てくると思います。 さくら祭りが復活するのでそちらとも関連付けて促進を図るとよい。	

## 8. 情報教育の推進及び学校図書館の充実

		自己評価	学校関係者評価 委員からの評価
(16)	高度情報化社会に適切に対応していくことができるよう、各教科に応じた情報活用能力の育成を目指す情報教育の推進に努めている。	95%	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当 要検討
(17)	学校図書館を整備し、児童生徒の読書活動の充実に努めている。	100%	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当 要検討
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者評価委員による主な意見	
(16)	全校生徒にパソコン、学校にはWiFi、各教室に電子黒板が設置され、多くの授業で情報を活用した授業が展開されている。環境が整備され生徒の情報活用能力が向上してきている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの周囲の環境をみると、なるべく早い段階での情報モラル教育が求められると考える。</li> </ul>	
(17)	学校司書を中心に蔵書を充実させたり読書喚起をしたりすることで、読書の意欲を高めることができた。また朝読書や昼休みの図書室開放を通して図書の貸し出し数が大幅に増加した。		

## 9. 学校校地の自然環境の整備と自然体験学習の推進向上

		自己評価	学校関係者評価 委員からの評価
(18)	校地内に花と緑の潤いのある教育環境をつくとともに、児童生徒の自然体験学習の充実に努め、自分たちの住んでいる地域の自然環境を守り大切にしようとする心の育成に努めている。	75%	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当 要検討
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者評価委員による主な意見	
委員会や係の生徒が年間を通して植樹し、花壇やプランターを整備した。校舎内外にきれいな草花が茂る環境を整備することができた。また、地区生徒会を中心とした地域に貢献し隊では各地区の環境美化を目的とした活動を計画した。実施はできなかったが次年度は実現させたい。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・槻木中学校は「花のまち柴田」の入り口にありません。そういった意味でも校舎内外にきれいな草花が茂る環境作りはとても素晴らしいと思います。地域貢献にもつながると思います。</li> <li>・自然体験の場が減ってきている。様々な活動がある中だが確保できるとよい。</li> <li>・地域の人との関わりを増やしてほしい。</li> </ul>	

## 10. 教職員の資質及び指導力の充実・向上

		自己評価	学校関係者評価 委員からの評価
(19)	教職員の自己研修を促し、指導力向上を図るとともに、学校課題の解決を図る校内研究・校内研修を積極的に推進している。	100%	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当 要検討
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者評価委員による主な意見	
校内研究に教職員全員で取り組んできた。指導主事訪問では協働による授業づくりに専門教科外の教員も積極的ににかかわり、研究を進めた。また研究授業を多数の先生が行い授業改善に学校全体で取り組んできた。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生方が日々たくさんのことを行っていることが分かった。大変だと思うが今後も継続できるとよい。</li> </ul>	

## 11. その他

		自己評価	学校関係者評価 委員からの評価
(20)	子供たちと一緒に話をしたり、教育相談をするなどのふれ合う機会を多くつくっている。	100%	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当 要検討
(21)	子供たちは充実した学校生活を送っている。	90%	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当 要検討

自己評価結果から次年度へ向けて	学校関係者評価委員による主な意見
<p>(20)授業者は時間前に教室に入るようにし、生徒との対話を大切にしている。また、各学年の担当者が昼休みなど各学年のホールで時間を過ごし、生徒に目を配ってきた。担任は生徒が記入する「自分ログ」という記録を通して悩みを聴くなどコミュニケーションを図ってきた。また、定期的に各学級で生徒と担任の2者面談を行ってきた。</p> <p>(21)各行事で生き生きと活動する生徒の姿が見られた。新型コロナウイルス感染拡大の影響で様々な活動が制限される中、できることを最大限工夫して教育活動に取り入れてきた。</p>	<p>先生方が子どもたちと過ごす時間を大切にしていることを感じていました。先生方が子どもたちの姿を受け取っているから子どもたちは安心して笑顔なのだと思います。</p>

12. 教育目標について		自己評価	学校関係者評価委員からの評価
(22)	教育目標「心豊かで、たくましく、生き生きと学ぶ生徒の育成」が、学校の教育活動において具現化されている。	100%	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当 要検討
自己評価結果から次年度へ向けて		学校関係者評価委員による主な意見	
各学級、特別教室等に教育目標を掲げ、教師も生徒も教育目標を意識しながら活動できるようにした。職員会議では教育目標を具現化するための具体的な教育活動の提示をしてきている。			

◆その他:学校関係者評価委員による主な意見

<p>・子どもたちのために日々一生懸命取り組んでくださっている先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。いつの時代も子どもたちにとって「先生」はとても大切な存在です。その先生方が少しでも活動しやすいように地域でしっかりサポートしていきたいと思っています。</p>
---